口　輸送費用を安くする方法

海上コンテナー本に満たない小口輸出をする場合、悩ましいことは輸送費用や梱包費用・通関費用などの付帯経費が割高に感じられることです。コンテナ単位の輸送では国内仕様の段ボール箱のままパレット（木製やプラスティック製の台）に載せて、透明なラップフィルムで覆えば、まず安全に輸送できます。しかし、例えば 20 キロの段ボール箱を 16 個（合計 2 ㎥）だけ輸出するとなると、場合によっては輸出梱包のために梱包会社に運び、それから通関業者／フォワーダーの倉庫に入れて、ほかの貨物と一緒にコンテナ混載をすることになます。こうした日本国内の度重なる輸送費用や梱包費用さらに通関のための費用が何万円にもなってしまうのです。木箱や木枠の梱包費用はちょっとした家具の値段です。通関に伴う書類作成を含めた費用は一件あたり 2 万円前後です。

大手のフォワーダーに横浜から上海向けの上記のような貨物の輸出梱包・マーキング・コンテナ混載・海上輸送・通関書類作成などのすべてを見積り依頼すれば、素人相手には 10 万円近い金額を提示されるでしょう。木箱梱包をやめても 5～6 万円で、1カートンあたり 3～4 千円になります。輸入地側では、輸入関税に加えて輸入通関費用・引き取り・輸送費用がバイヤー側で発生します。

☆☆

上手に段ボール梱包を

コンテナ混載貨物の場合、段ボール梱包のままでも二重箱にし、水濡れ防止の内装プラスティックなどを使えば木箱や木枠に梱包しなくても、まず大丈夫です。段ボールだけだと2㎥でも、さらに木箱梱包にすると 30%以上容積が増えてしまいます。海上運賃や港湾費用は容積あたりの費用に設定されていますので容積を小さくすることがコスト削減につながります。

また、外装の箱につけるシッピングマーク（荷印）も業者に依頼せずに自分で行いましょう。基本的には客先の要請や輸出相手国側のルールに対応して、付けるものですが、荷主のマーク・目的港・連続ケース番号・原産国、取扱注意マークなどを記載します。

Sample

輸送の依頼先を賢く選ぶ

小口の輸出船積みでは船会社と直接に契約するのではなく、フォワーダーと呼ばれる業者経由で国内での輸送から通関・海上輸送・書類作成などを一貫して依頼するケースが多いものです。フォワーダーとは荷主と海陸空の輸送会社の仲介者として書類作成からドアツードアまでの輸送を行なう代理業者のことです。倉庫業・港湾輸送業・トラック輸送業・通関業などを兼ねている場合が多いですが、船会社や商社の子会社もあります。小口の輸出にも親切に対応してくれる会社と小口貨物にあまり関心のない会社があります。自社のニーズに合ったフォワーダーを見つけることが大切です。

20 フィートコンテナー本当たりの費用

LCL 貨物（Less that Container Load）と呼ばれる混載コンテナ貨物の場合は上記のような価格になるのですが、コンテナー本をFCL（Full Container Load）貨物で船積みした場合、重量 18 トン余り、容積 30 ㎥近く積載可能です。その場合、費用は次のようになります。

（1）通関・書類作成費用　1件につき　2 万円
（2）船積み荷役費用.　2-3 万円
（3）内陸から港までの費用　3～5 万円
（4）海上運賃　日本から上海　5～8 万円

海上運賃は実勢運賃マーケットがあって、船会社や荷主、季節や貨物の量と種類によって変わります。（因みに海上保険料は貨物代金の 110%　x　0.5～1%程度）

仮に 160 カートン、20 ㎥の貨物をコンテナに積んだとすると、およそ 16 万円前後の費用になり　1カートンあたり約 1,000 円で済みます。

EMS での輸送も考えてみましょう

ところで郵便局の EMS をご存知ですか。重量 30 キロ未満、長さ 180 センチ以内、長さプラス横周囲が 300 センチ以内の段ボール箱に入るような品物を郵便局の EMS で送る場合、中国側ではほとんどのケースで（1,000 元以下なら）通関手続きのようなものもなく無税で配送されます。まして東京都内から午前中に発送すれば、上海市内には翌日配達される便利さがあります。配送料はやや高いものの、梱包が簡単など大きなメリットがあります。